

2014年11月11日

スキー・スノーボードシーズンの降雪傾向発表

**北～東日本の降雪量は平年並から多め、西日本では少ない予想
～12月後半から降雪増加、年末年始は全国のゲレンデでパウダースノーに期待～**

株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁）は、11月11日（火）、日本各地のゲレンデの降雪傾向を発表しました。今シーズンは周期的に寒気が流れ込むため、各地の降雪量は、北～東日本の日本海側では平年より多く、北～東日本の太平洋側では平年並、西日本では少ない予想です。クリスマスや年末年始は寒波が襲来するため、北～西日本の日本海側では広範囲で大雪となる見込みです。その後も、やや強い寒気の影響で、日本海側ではまとまった降雪がある予想で、良い雪質で滑走できるゲレンデが多くなります。

スキー・スノーボードシーズンの降雪傾向の情報はこちら

スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」
をダウンロード後、「おしらせ」にアクセス

スマホ向けwebサイト「ウェザーニューズ」
<http://weathernews.jp/s/>

◆12月～3月の降雪傾向

・12月の降雪傾向

12月中旬までは寒気が北日本を中心に流れ込むため、12月前半にゲレンデを楽しめるエリアは北日本が中心になります。12月後半になるとさらに南のエリアにも寒気が流れ込み、東～西日本のゲレンデでも十分な降雪量となる所が多くなります。12月後半になると、全国的に雪質の良い状態でスキー・スノーボードを楽しめるようになるため、ゲレンデにお出かけするのは12月後半以降がおすすめです。



・年末年始の降雪傾向

年末年始は寒波の影響で全国的に平年より寒く、全国各地のゲレンデで豊富な新雪を期待できます。ただ、北海道～中国の日本海側では平年より降雪量が多くなり、大雪や強風により、交通機関に影響が出る可能性があります。ゲレンデにお出かけの際は、最新の情報を確認してください。

・1月の降雪傾向

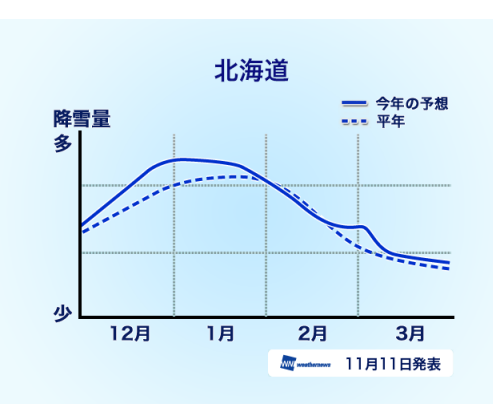
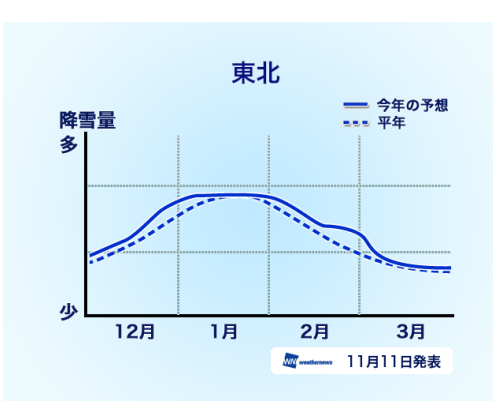
1月は冬型の気圧配置が続き、北～西日本の日本海側では雪の降る日が多くなりそうです。ただ、1月中旬には一時的に冬型の気圧配置が緩む時期があります。この時期は日本海側では雪が弱まるものの、低気圧の通過により関東など太平洋側の平野部でも雪が降る可能性があります。また、低気圧が通過し

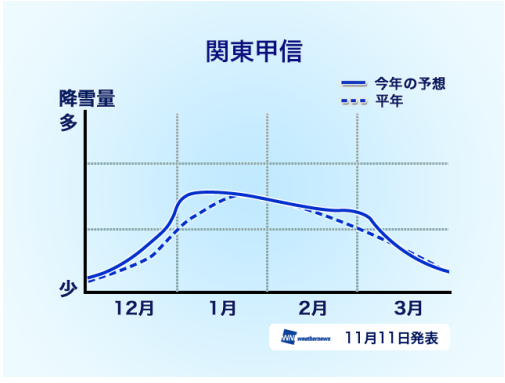
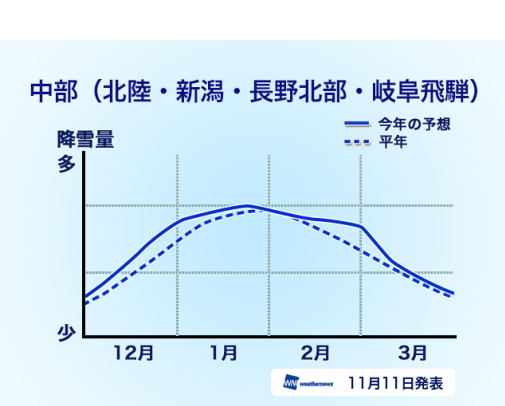
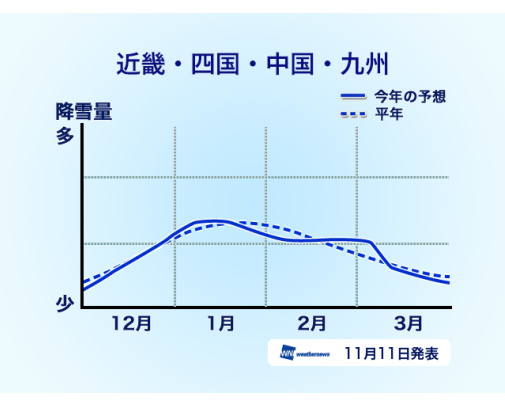
た後は、冬型の気圧配置となって寒気が流れ込むため、日本海側のゲレンデは再びまとまった量の雪が降る見込みです。

・2～3月の降雪傾向

2月～3月中旬までの気温は、北日本は平年並かやや低く、寒気が強まるタイミングで降雪量が増える見込みです。西～東日本は平年より気温が低く、寒気が流れ込むと日本海側では雪が降る予想です。また、本州南岸を進む低気圧（南岸低気圧）の通過時は関東南部でも積雪の可能性があります。2月下旬～3月上旬は強い寒気が流れ込み、日本海側ではまとまった積雪となる地域がありそうです。3月下旬になると気温は平年並かやや高めとなる予想で、ゲレンデでは次第に雪解けが進みます。

◆エリアごとの特徴

	シーズン本格化時期	降雪量	降雪の特徴	降雪傾向
北海道	12月中旬～	平年並～多い	12月は低気圧や寒気の影響で雪が降り、後半ほどまとまった降雪となる予想です。また、年末年始は強い寒気の影響で十分な新雪が期待できますが、日によっては暴風雪や大雪の恐れもあります。ゲレンデの滑走可否はもちろん、交通機関への影響にも注意が必要です。2月以降、降雪量は次第に減りますが、2月下旬から3月上旬にも寒気がしっかり流れ込み、再度、降雪量が増える可能性があります。3月中旬までは良いコンディションでゲレンデを満喫できますが、3月下旬からは次第に暖かくなり、ゲレンデでは徐々に雪解けが進みます。	 <p>北海道</p> <p>降雪量</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>12月 1月 2月 3月</p> <p>— 今年の予想 - - - 平年</p> <p>11月11日発表</p>
東北	12月中旬～	平年並～多い	12月は低気圧や寒気の影響で日本海側ほど雪の降る日が多くなります。年末年始は寒波の襲来で降雪量が増加し、日によっては吹雪や大雪の恐れもあります。ゲレンデの滑走可否はもちろん、交通機関への影響にも注意してください。1月下旬になると降雪のピークを越えますが、3月上旬は強い寒気が流れ込むため、降雪量が増える見込みです。降雪状況を確認してお出かけすると、雪質の良い状態でのスキー・スノーボードが楽しめそうです。3月下旬になると次第に春めいてきて、ゲレンデでは徐々に雪解けが進みます。	 <p>東北</p> <p>降雪量</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>12月 1月 2月 3月</p> <p>— 今年の予想 - - - 平年</p> <p>11月11日発表</p>

<p>関東甲信</p>	<p>12月 下旬～</p>	<p>平年並 ～多い</p>	<p>12月下旬以降、関東北部の山沿いでは雪の降る日が増え、降雪量も平年並かやや多くなる見込みです。山沿いでは、周期的に寒気が流れ込んで雪を降らせ、新雪を期待できます。スキーやスノーボードにお出かけの際は、事前に降雪情報を確認すると良さそうです。特に、年末年始と2月下旬は、強い寒気が流れ込んで十分な降雪が予想されるため、ゲレンデにお出かけするにはこの時期がおすすめです。3月下旬になると平年並に暖かくなり、ゲレンデでは雪解けが進みます。</p>	 <p>関東甲信</p> <p>降雪量</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>12月 1月 2月 3月</p> <p>— 今年の予想 - - - 平年</p> <p>11月11日発表</p>
<p>中部 ※北陸 新潟 長野北部 岐阜飛騨</p>	<p>12月 下旬～</p>	<p>平年並 ～多い</p>	<p>12月後半から日本海側では雪の日が増え、年末年始は寒波の影響でまとまった雪が降ります。日によっては吹雪や大雪の恐れもあるので、ゲレンデの滑走可否はもちろん、交通機関への影響にも注意してください。その後も雪の降りやすい日が続く、ゲレンデは良いコンディションが続くそうです。2月は発達した低気圧の通過により、しっかり雪が降るタイミングがあり、雪質の良い状態でスキー・スノーボードを楽しめる日が多くなりそうです。2月下旬から3月上旬にかけては再び寒気が強まり、大雪で交通機関に影響が出る恐れもあります。3月下旬からは次第に暖かくなり、ゲレンデでは雪解けが進みます。</p>	 <p>中部（北陸・新潟・長野北部・岐阜飛騨）</p> <p>降雪量</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>12月 1月 2月 3月</p> <p>— 今年の予想 - - - 平年</p> <p>11月11日発表</p>
<p>近畿・中国 四国・九州</p>	<p>1月 月上旬～</p>	<p>平年並 ～少なめ</p>	<p>年末年始は寒波の影響で、西日本のゲレンデでも十分な降雪がある予想で、新雪に期待できそうです。ただ、近畿（北部）や山陰では、日によっては吹雪や大雪の可能性があるので、ゲレンデの滑走可否はもちろん、交通機関への影響にも注意が必要です。1月は冬型の気圧配置となることが多く、西日本では晴れる日が多くなり、降雪量が少なくなる予想です。2月は発達した低気圧の影響で日本海側では降雪の可能性もあります。また、3月中旬以降になると、高気圧に覆われ、晴れて暖かくなる日が多くなり、ゲレンデでは雪解けが進みます。</p>	 <p>近畿・四国・中国・九州</p> <p>降雪量</p> <p>多</p> <p>少</p> <p>12月 1月 2月 3月</p> <p>— 今年の予想 - - - 平年</p> <p>11月11日発表</p>

* シーズン本格化時期は、降雪傾向に基づくもので、スキー場のオープン時期とは異なる場合があります。

◆今シーズンの降雪傾向について

当社では、日々、長期気象予測サービスの実用化に向けて取り組みをおこなっていますが、現在の気象予測の技術水準では、予測精度の誤差が大きくなる場合があります。今回の降雪傾向発表にあたり、複数の気象機関や長期予報の有識者からの見通しを元に、総合的に見解を出しています。本リリースにおける情報につきましては、発表日（11月11日）における最新の見解になります。